

DCP-NB002-L 使用法

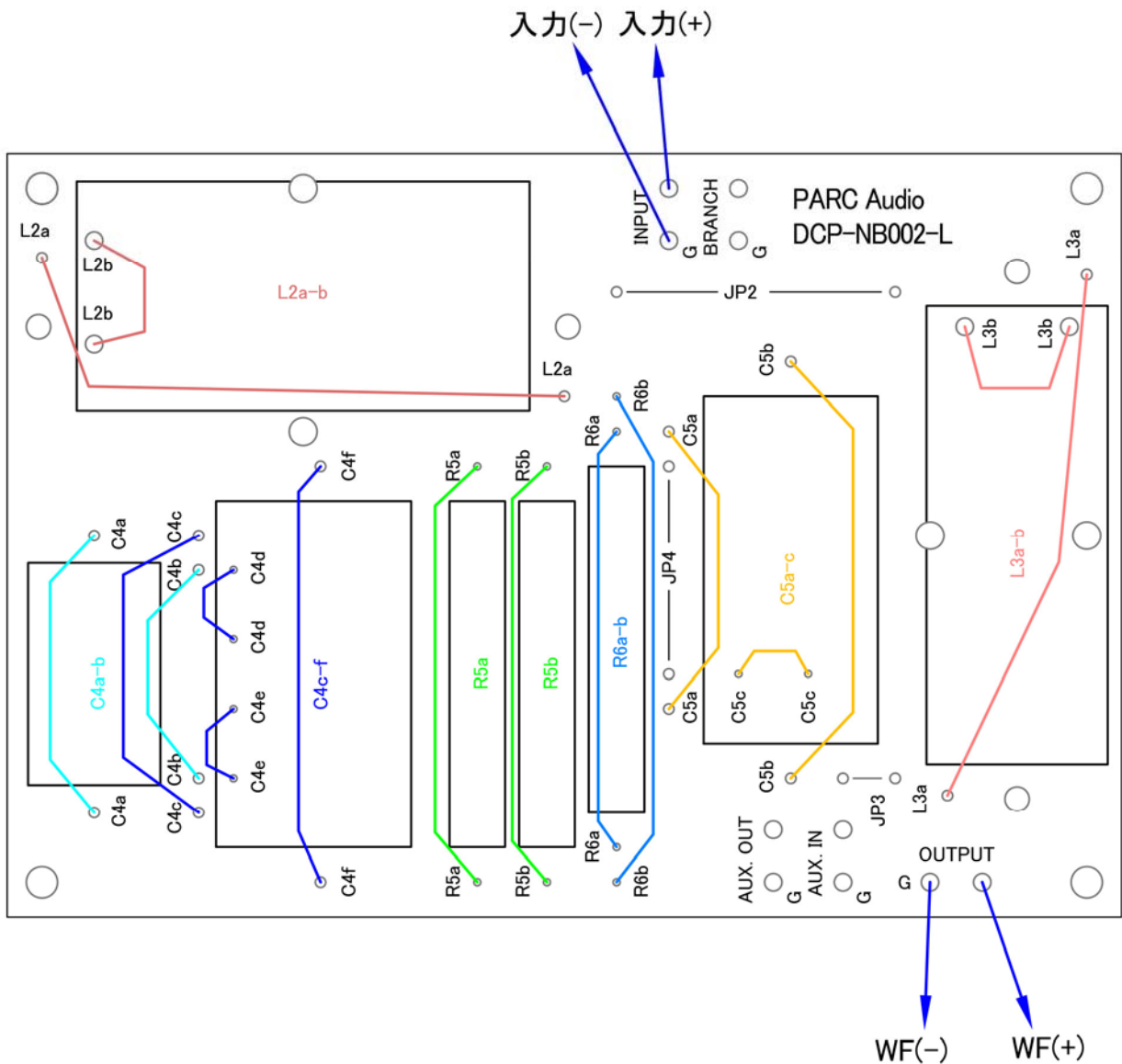
1) リード線の接続について

コンデンサー、コイル、抵抗は、素子のリード線をそれぞれ (a~f) の同じ穴に接続してください。
下図のリード線の接続図 (色別) を参考にしてください。

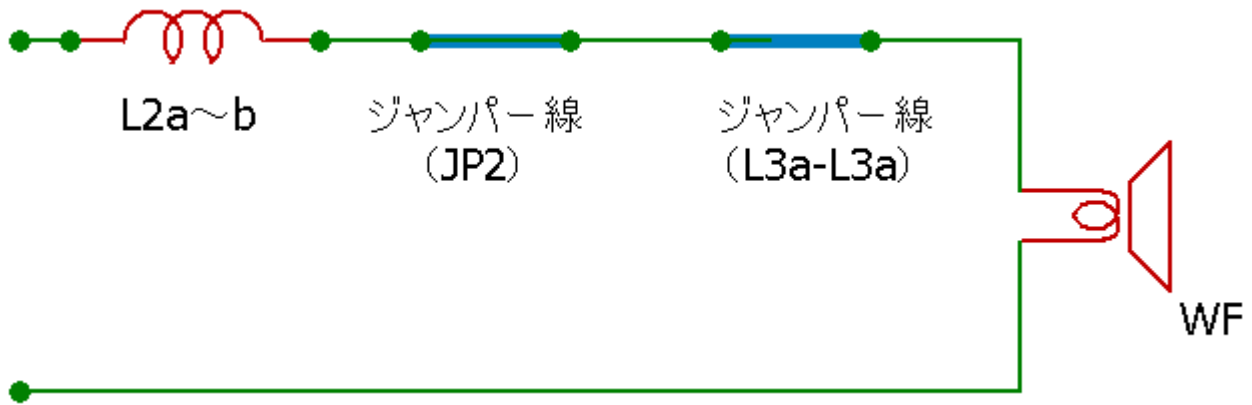
例) *コンデンサーC4a → C4aの穴とC4aの穴に接続
(片方をC4a、残りの片方をC4bなどの接続はNGです。)

*コンデンサーC4b → C4bの穴とC4bの穴に接続

コンデンサーは、リード線の位置によって、接続位置を選んでください。



2) -6dB/oct.の場合

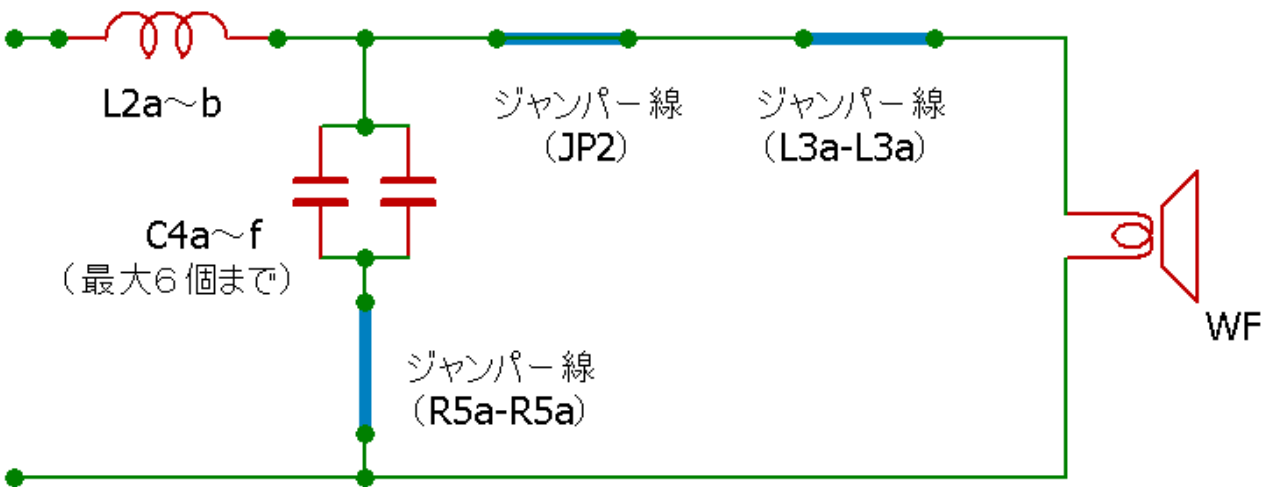


JP2 と、L3a~L3a にジャンパー線（2本）を接続し、短絡します。

L2a か L2b のどちらかに、1個のコイルを接続します。

複数のコイルを近傍に設置すると干渉するため、L2は1個のコイルを接続することを推奨します。お使いのコイルのリード線の位置で接続する端子穴部を選択してください。

3) -12dB/oct.の場合



JP2、L3a~L3a、R5a~R5a にジャンパー線（3本）を接続し、短絡します。

L2a か L2b のどちらかに、1個のコイルを接続します。

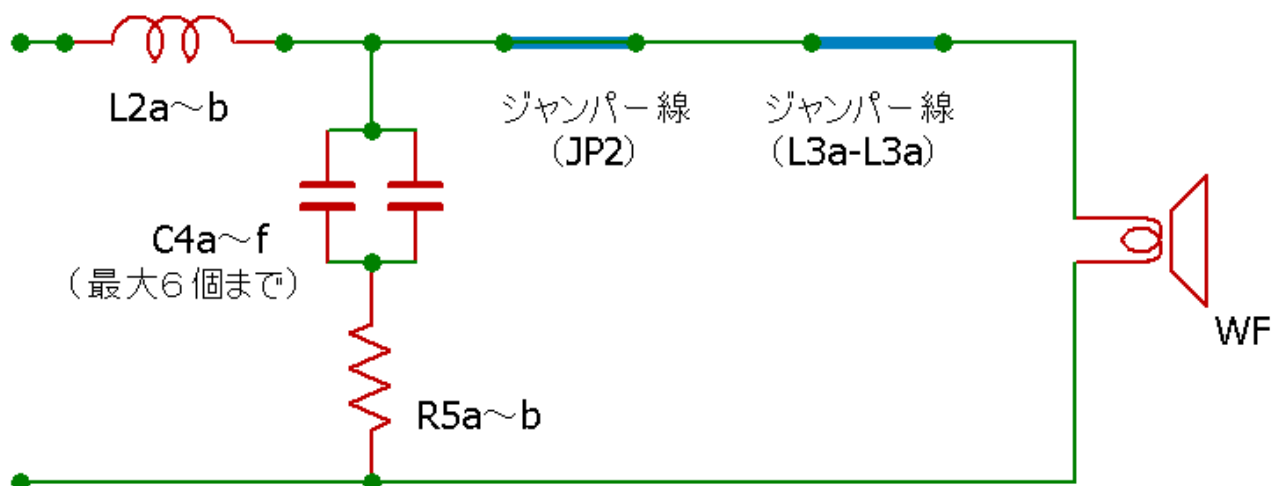
複数のコイルを近傍に設置すると干渉するため、L2は1個のコイルを接続することを推奨します。お使いのコイルのリード線の位置で接続する端子穴部を選択してください。

C4a~C4f に、最大6個のコンデンサー（1個でもOK）を接続します。

それぞれのコンデンサーはパラ（並列）接続になりますので、最終的な定数は全てのコンデンサーを合計したものになります。

例) *C4a = 1uF, C4e = 3.3uF の場合 → C4 としては 4.3uF となります。

4) -12dB/oct.+ダンブ抵抗付きの場合



JP2、L3a~L3a にジャンパー線（2本）を接続し、短絡します。

R5a~R5b には、最大2個のダンブ抵抗を接続します。

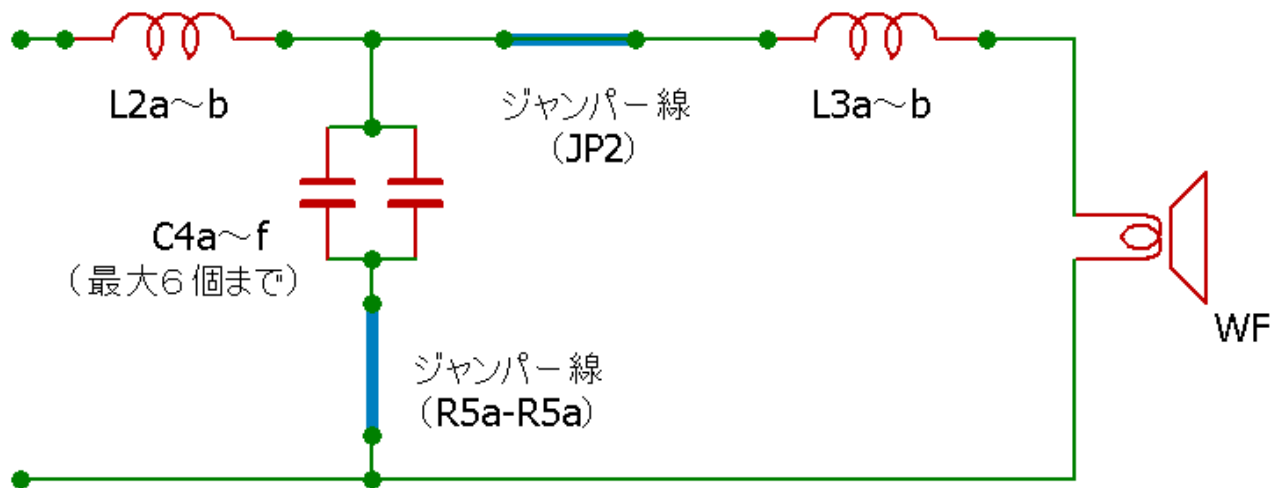
それぞれの抵抗はパラ（並列）接続になりますので、それぞれの最終的な抵抗値は下記になります。

例) * R5a = 2Ω, R5b = 2Ω の場合 → R5（合計）は 1Ω

抵抗には耐パワーで十分余裕があるように、容量を選んでください。

L2a か L2b と C4a~C4f については上記3) を参照してください。

5) -18dB/oct.の場合



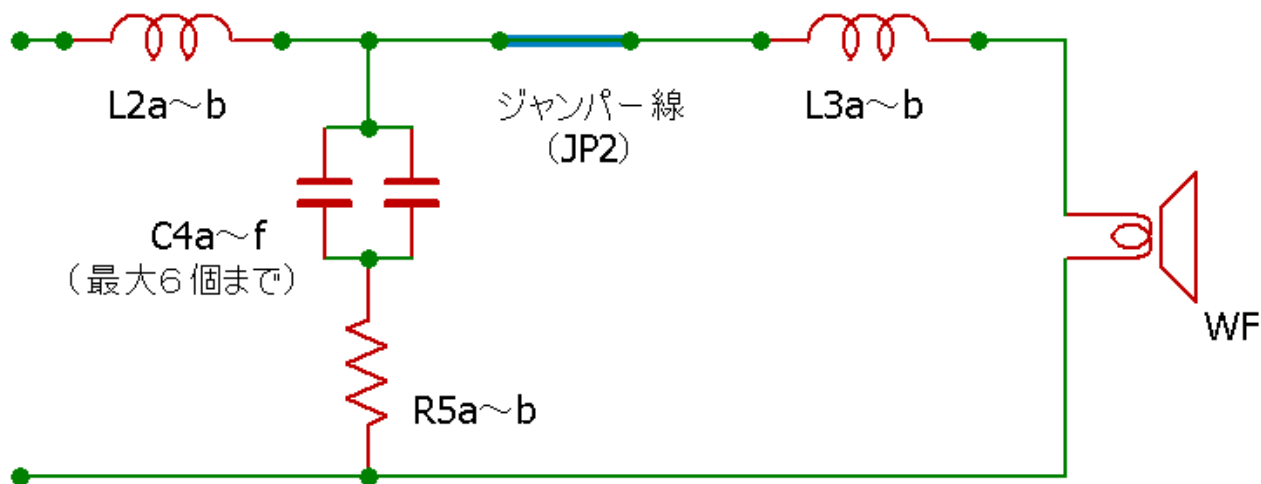
JP2、R5a~R5a にジャンパー線（2本）を接続し、短絡します。

L3a か L3b のどちらかに、1個のコイルを接続します。

複数のコイルを近傍に設置すると干渉するため、L3は1個のコイルを接続することを推奨します。
お使いのコイルのリード線の位置で接続する端子穴部を選択してください。

L2a か L2b と C4a~C4f については上記3) を参照してください。

6) -18dB/oct.+ダンブ抵抗付きの場合



JP2 にジャンパー線 (1 本) を接続し、短絡します。

L2a か L2b と C4a~C4f については上記 3) を、
L3a か L3b については上記 5) を参照してください。

7) インピーダンス補正回路

外部回路を接続せずに、WF のインピーダンス補正のみを行う場合は、JP3 にジャンパー線 (1 本) を接続し、短絡します。

次に R6、C5a~C5c を接続してください。

WF のインピーダンス補正を行わない場合は、ジャンパー線 (JP3) の接続はしないでください。

8) 外部回路

バッフル補正などの外部回路を使用する場合は、OUTPUT 端子を外部回路の入力部に、外部回路の出力部を AUX. IN 端子に接続してください。

AUX OUT 端子の出力は、WF に接続してください。

外部回路を接続する場合は、インピーダンス補正を行う場合でも JP3 のジャンパー線は接続しないでください。(オープンのままです)